

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第194回定期演奏会

The 194th Regular Concert

佐藤敏直作品 ～清廉な風にのって～

2009年1月28日[水]
午後7時開演
津田ホール

主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
助成：平成20年度文化庁芸術創造活動重点支援事業
協賛：津田ホール、音の杜
後援：日本現代音楽協会

■ 日本音楽集団： <http://www.promusica.or.jp/> E-mail： office@promusica.or.jp



洋楽器邦楽器の区別なく歩んだ 20世紀の足跡を



小宮多美江
(近現代日本音楽史)

佐藤敏直(1936～2002)といえはだれもが合奏の「ディヴェルティメント」や、尺八ソロの「片足鳥居の映像」を思い浮かべるだろう。今回それらは入っていないが、尺八の三重奏、三絃の二重奏、箏だけの合奏や日本音楽集団のいつもの編成による合奏まで十分多彩なプログラムになっている。

佐藤敏直の全作品は洋楽のすべてのジャンルにわたっている。作品表でみるとその数100曲あまり。多い順に並べると、ピアノ、合唱、室内楽、管弦楽だが、邦楽器のための曲が合唱に次ぐ曲数で、1980年代から急増していることに気づく。

『日本の作曲家』(音楽の友・音楽芸術 別冊1983)で佐藤敏直を担当したとき私は、かれのふるさと鶴岡のことや清瀬保二に師事するまでのことなどを詳しくきいたのだったが、じっさいに庄内から山形を旅したのは87年、管弦楽付き合唱曲、交響讃歌「やまがた」初演のときだった。そのころ、比較的珍しい編成のヴァイオリンの二重奏による「天空によせる歌謡」や無伴奏チェロの曲「パンドリの唄」をよくきいていた。

もちろん、その方面での創作も絶えることはなかったが、創作の全生涯からいって晩年にいくにつれて邦楽器作品がこれほどたくさん生み出されたその背景には、70年代以後におこったいわゆる現代邦楽ブームも影響しているだろうが、それよりも演奏者の側からの積極的な働きかけがそうさせたにちがいないということが、記録された委嘱団体名、日本音楽集団ばかりでなく、宮城会合奏団、沢井忠夫合奏団、紫桐会、森の会などなどからみとれる。

「ディヴェルティメント」がそうであるように、日本音楽集団からの委嘱による場合、作曲家はその標準編成に素直ののっとった合奏曲を構想している。「青のモチーフによるコンポジション」がそうであるし、また、プログラム最後に置かれた「和楽器のための協奏曲」は、作曲者が和楽器にはじめて手を染めてからほぼ30年のときを経ての作品として興味深い。

それにたいして、宮城合奏団の委嘱による「風と光と空と」は、十七絃を含めて一つの種類、箏だけの合奏曲である。

じつは作曲者はこどもの頃のある時期、隣家のお琴の先生と生徒の音楽を毎日きいていた、あるいはきかされていたが、あまり関心をもたず、それよりも自分の家のピアノとたわむれ、そこから自由に生むことのできた音楽の方がよほど気に入っていたと告白している。似たような体験は、大正生まれではなく昭和に入ってから都会で育ったこどもたち、まして、洋楽の良さをすでに十分味わっていた親の子にすればほぼ当り前のことであつたと思う。

だが、「風と光と空と」は過去のそのような観念をとっくに超越して、題名そのものが示す大きくひらけた世界を描いている。これは筆者もはじめて聴く作品なので大いに期待している。

以上の合奏三曲のあいだに挟まれたのが、細棹と太棹三味線の二重奏「序破急」と尺八3本の「灰色の風のデッサン」。

尺八はまずソロ曲として「片足鳥居の映像」が作曲され、ついで二本の「鳩のいる風景」そして、今回演奏される三本の尺八による曲が書かれたことになる。

「灰色の風のデッサン」の作曲は前記したヴァイオリン二重奏曲「天空に寄せる歌謡」の直前に書かれたものである。一方「序破急」の作曲は2000年。結果として最晩年の作ということになるが、いずれにしても個性のはっきりしたソリストたちが、ときには競うように、あるときは互いに寄り添って奏でる音楽のたのしみを期待する。

佐藤敏直の、洋楽器も邦楽器も区別することなく、師清瀬保二の道をひきついで、20世紀現代日本の音楽の歴史にのこした足跡を今夜はじっくり味わいたい。

一、青のモチーフによるコンポジション(1984年)

Composition On The Motive "Blue"

[笛] 竹井誠
[尺八] I 米澤 浩 II 阪口夕山
[箏] I 山田明美 II 桜井智永
[十七絃] 久本桂子
[三味線] 穂積大志
[琵琶] 久保田晶子
[打楽器] 望月太喜之丞・廬慶順・島村聖香
[指揮] 田村拓男

作曲者のことば

青のモチーフについて

青は紺、藍、群青、北斎の青、ミロの青、海の青、空の青、地球の青。

青は黄や緑、茶やグレー、そして丹や黒によって、より一層の青になる。

この音楽では下降する「ド・ソ・ファレ」の基調 — 名づけて青の音列 — に、一層の青であるための彩色の要素を、楽器たちに分け与えた。

曲は1楽章。編成は、日本音楽集団の標準編成と云われるものに拠って、十パートのアンサンブルとなった。

今回の曲名にもいろいろあらわれているので分かる通り、佐藤敏直は たいへん絵も好きで、音よりも先に色を思い浮かべる、という風なところがあった。ここにあることばもそのことを良くあらわしている。そしてたしかに日本の楽器は私たちにとって、洋楽の楽器とはまた違う色合いを持っている、そのことにはどなたも気づかれることだろう。

二、「序破急」二棹の三味線のための(2000年)

Jo-Ha-Kyu 2000

(Introduction-Extension-Conclusion :

A traditional playing order to music by Japanese instruments
by 2 pieces of Shamisen : Hoso-Zao and Huto-Zao)

[細棹] 簗田弘大
[太棹] 山崎千鶴子

作曲者のことば

冒頭のファ#・ソ・ラ#・ド#・レ・ラの音列で始まりますが、全体はこの関係が基本となって、多様に展開されます。文字通り「序」はテーマの提示で導入部分、「破」は一つの展開、「急」は、さらなる速さや「ま」の異なった場面への発展と、三つの部分からなっていて、切れ目無く演奏されます。三味線のために親切的な音楽になったとはとても思えませんが、太棹と細棹との対比が明確に出て音楽の綾がいつそう深まることを祈っています。

案外、類曲がないせいか、すでに多く演奏の機会を得ているようだが、今回細棹三味線を担当するのは初演者の子息とのこと。世代を越えてどのような味のちがいが出るのだろうか興味を湧く。

(2000年5月17日、委嘱初演、細棹三味線 簗田司郎、太棹三味線 山崎千鶴子。)

三、風と光と空と(1986年)

Wind And Light And Sky
(by 5 pieces of Koto, 2 pieces of Seventeen-string Koto)

- [箏] I 熊沢栄利子
II 久東寿子
III 桜井智永
IV 山田明美
V 田村法子
[十七絃] I 城ヶ崎美保
II 久本桂子

作曲者のことば

伝統的なお箏の調絃が、今日のようなものになっているのは、当然のことながら伝統的な音楽を奏するのにもっとも相応しいという理由になろう。胴の形などもそれらの響きを豊かにするために試行錯誤を経て定着した筈である。

けれども私は、そのお箏の音色からしばしば、いわゆる教会旋法への想像をかきたてられる。ハープに近いものを潜在的に感じているのかもしれない。

この作品は3つの楽章から成っており、そのほとんどが教会旋法であるから、従って調弦もすべてのお箏が、音域上の差はあっても、同じになっている。もっともこんなことは合奏だからこそ出来ることで、独奏だったら音域が狭くなって不自由になるに違いない。

ところで、風も、光も、空も、それ自体では形もなく意味も不明確であるから、仮に1枚の木の葉すらも泳がせることがなければ、これを単にI、II、III、としてもいいくらいのものである。編成は箏5パート、十七絃2パートとなった。

すでに邦楽器の扱いにかなりの経験を積んだあとの作品だが、いっそ箏をハープの感覚でとらえ、その意味で自由に3楽章の曲に仕立てている。第1楽章冒頭からあらわれるたった3音の動機がかなり執拗に耳をとらえる。もちろんまんなかの第2楽章にあらわれる旋律はなかなか思わせぶり。対して速さの第3楽章が短く鋭く全曲の終わりを告げるのもまた印象的。

(1986年宮城合奏団委嘱作品)

四、灰色の風のデッサン 3本の尺八のために(1978年)

A Sketch Of The Gray Wind (by 3 pieces of Shakuhati)

- [尺八] I 元永 拓
II 竹井 誠
III 三橋貴風

作曲者のことば

緑の風が心地よいものだとするならば、灰色の風は、不吉な兆しを予告する。みせかけの繁栄。人間が物質に支配される時代の、冷ややかな幸福。それは未来への悲しい風。

(石川一彦師より木本勝山氏のために委嘱され、1978年に作曲。初演1979年11月18日、「都山流日本尺八連盟京都府幹部会演奏会」において、演奏 木本勝山、根子国光、小川帛山 楽譜『尺八による三つの作品』全音楽譜。)

五、和楽器のための協奏曲 (1977年)

Concerto For Japanese Instruments

- [笛] 西川浩平
- [尺八] I 米澤 浩・原郷 隆
II 元永 拓・阪口夕山
- [箏] I 熊沢榮利子・佐藤里美
II 田村法子・高橋はるな
- [十七絃] 久東寿子・渡辺正子
- [細棹] 守啓伊子
- [太棹] 山崎千鶴子
- [琵琶] 首藤久美子・藤高理恵子
- [打楽器] 仙堂新太郎・多田恵子
- [指揮] 稲田 康

作曲者のことば

個性の強い、西洋のそれにくらべて異種の間ではお互いに溶けあにくい楽器や楽器群の存在を、出来るだけはっきり顕したいと考えながら書いた作品です。共存あり、葛藤あり、時には混沌が生まれ、そしてまれに調和もみえるような多様な変化をまとめたものです。単一楽章。

つづけて作曲者が「この年は、『邦楽グループたまゆら』やNHK邦楽器技能者育成会の作品完成など、不思議と和楽器に縁のある年でした。」と書いているように、亡くなるまでの数年、和楽器の合奏の指導、こどもたちのための教材のことなどなどに多忙をきわめた。

曲は作曲者の言葉通り、合奏のなかで各楽器の個性をよくつかんで構成されているのが特徴的。

(日本音楽集団委嘱、1997年11月27日の第149回定期演奏会 津田ホール、田村拓男指揮で初演。2000年5月17日の第159回定期演奏会に際して改訂、作曲者自身の指揮により再演された。)



佐藤敏直

1936年7月24日山形県鶴岡市生まれ。生後間もなく父の勤め先北樺太オハに移り、一年後より東京世田谷で育つ。自らヴァイオリンを嗜んだ父の書齋にはピアノがあり、物心ついた

頃にはこの楽器と遊ぶ環境だった。その後疎開のため郷里に戻り、小学2年から高校までを過ごす。ここで合唱やピアノ演奏を盛んにした。鶴岡第三中学校で出会った音楽教師三井直先生からは大きな影響を受けた。

山形県立鶴岡南高等学校を卒業後上京し、慶應義塾大学工学部電気工学専攻の傍ら作曲家を志し、清瀬保二氏に師事。1959年、第28回日本音楽コンクールにピアノ曲で入選。作曲グループ「耕人会」や日本現代音楽協会（現音）を中心に発表活動に入る。当初から民族的な感覚の濃い色彩豊かな響きの特徴とする作品を継続的に発表した。66年日本音楽集団委嘱「ディヴェルティメント」で邦楽作品の作曲を始める。87年現音演奏家シリーズ、88年音楽の友社主催作曲家自作自演シリーズなどを通して室内楽作品の個展を開く。

鶴岡土曜会混声合唱団発足に関わり、アマチュアコーラスグループ「どんぐり混声合唱団」を指揮し多くの合唱曲を残す。

自身の作曲活動に励みながら、音楽教育や運営にも取り組んだ。現音委員長を歴任、日本音楽コンクール作曲部門ほか多くの審査委員を務めた。NHK邦楽技能者育成会や東京芸術大学で現代邦楽の演奏家育成指導に携った。40年に亘りカワイ音楽教室の教材制作、講師育成に関わり、ピアノ曲、ミュージカル、母子のふれあい遊びなど、作品は多く、教育的指針を示し続けた。

2002年3月18日永眠。同年10月1日山形県鶴岡市より鶴岡市特別文化功績賞が贈られた。鶴岡市大宝館内郷土人物等資料館に紹介されている。

主な作品：

管弦三態、フルートとピアノのための「遠い国々への伝言」、ヴァイオリンデュオのための「天空に寄せる歌謡」、無伴奏チェロのための「バンドリの唄」、ピアノ淡彩画帖、こどものためのピアノ曲集「小さなパレット」

混声合唱組曲「旅の途の風に」、「はじめての町」、交響讃歌「やまがた」、日本の楽器のための「ディヴェルティメント」、独奏尺八のための「片足鳥居の映像」

～ 佐藤敏直作品による定期演奏会に寄せて～

音の社 代表 大谷恵美

本日は、日本音楽集団194回目の定期演奏会、誠におめでとうございます。

この演奏会が、佐藤敏直作品の深く静かな潔さをもって彩られることを、大変嬉しく思い心からお祝いを申し上げます。

今回のタイトルにもなっているように、佐藤敏直という作曲家の「清廉な」有り様というものは、出会った頃の若かった私の全身を驚掴みにしました。その紳士な様相とは裏腹な茶目っ気たっぷりのいたずら坊主ぶり、とことん深い哲学を追い求めて静まり返った精神と、その奥にあるマグマのような激しい創作へのエネルギー……。どれもが、日常の優しい大きな佐藤敏直をつくっている不思議な栄養となって、その作品とともに私を圧倒し続けました。

本日取り上げられるどの作品にも、佐藤に内在する一見正反対の性質の特徴がもの見事に表現されているのを聴くことができること、大変楽しみにしています。

和楽器にしかできないその強さと弱さの同居する精神の表現を、激しさと静けさの異質でない緊張を伝える意義を、喜びと悲しみの常に一体であるこの生の営みの厳しさを、魂の奥深く語るでもなくしんと伝える手法で、音と呼吸と律動で人と人の通い合う空気を震わせて訴えてくる佐藤作品……。

佐藤敏直という人間を通して生まれ出る音とリズムが、日本人の深い魂の息づかいの連なりとなって、会場中に震え渡る歴史的瞬間となることをこの目で、耳で、身体でしっかりと味わいたいと思います。

佐藤敏直先生は、生前日本音楽集団の活動を大変に応援されておいででした。今後の日本における活動が更に盛んになるようご自身尽力を惜しまない覚悟をお持ちでいらしたと認識しております。新しい邦楽作品が満々と世の中に聴こえ渡る時代の来る事が、日本の子どもたちを逞しく、優しくもするのだという考えをお持ちでした。ああ、今の時代にこの音こそが重要なのだとつくづく思います。今夜、日本音楽集団の気鋭の演奏家たちから、佐藤敏直の最も大切にしたい日本人の美しく深い精神を甦らせる強いメッセージが鳴り響かんことを願って。

特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】(団員)(楽器別・五十音順)

笛
越智成人
竹井誠(尺八)
西川浩平

宮田耕八朗
元永拓
米澤浩
渡辺淳

笙
真鍋尚之

胡弓
畦地啓司(作曲)
多々良香保里

箏
西原祐二

三味線

杵家七三
工藤哲子
田中悠美子
穂積大志
簗田弘大
簗田司郎
守啓伊子
山崎千鶴子

尺八
加藤秀和
阪口夕山
添川浩史
原郷隆
藤崎重康(笛)
水川寿也
三橋貴風

琵琶
久保田晶子
首藤久美子
田原順子
細川華鶴子

箏
大畠菜穂子
久東寿子
熊沢栄利子
桜井智永
佐藤里美
島崎春美
城ヶ崎美保
高橋はるな
田村法子
早川智子
彦坂恵美
久本桂子

前川美保子
松下知代
丸岡映美
三宅礼子
宮越圭子
山田明美
吉村七重子
渡辺正子

打楽器
白杵美智代
尾崎太一
黒坂昇
島村聖香
仙堂新太郎
高橋明邦(指揮)
多田恵子
望月太喜之丞
盧慶順
若月宣宏

指揮
稲田康
田村拓男
田村文生

作曲
秋岸寛久
尾形敏幸
川崎絵都夫
福嶋頼秀

楽器・舞台
中島隆

代表
田村拓男

副代表
尾崎太一

運営委員
秋岸寛久
越智成人
西川浩平
原郷隆
簗田司郎
望月太喜之丞
米澤浩

監事
宮田耕八朗
今井隆夫

事務局
中山美穂子
百武幸子

2009年1月現在

【賛助会員】(五十音順)

法人
(株)全音楽譜出版社
(株)宮本卯之助商店
NPOTリト・アーツ・ネットワーク

個人
青柳堯
安達真五
新井克輔
江西緑
大関富枝
太田颯衣
大塚悦子
川壁正
岸彰則
後藤陽子
四反田素幸

棚野正士
土井恵見
水野正徳
宮川慶子
渡辺邦子
渡辺治子

【協力会員】(五十音順)

名誉団員
坂井敏子
白根きぬ子
野坂恵子
宮本幸子

団友
青木誠
秋浜悟史
荒谷俊治
伊藤惣一
稲垣隆史
大窪悦子
川崎祥悦
菊地悌子
楠知子
鞍掛昭二
鯉沼廣行

坂田進一
芝祐靖
清水義矩
杉浦弘和
砂崎知子
芹沢英雄
高野文子
田嶋恵美子
田嶋直士
田中利光
鶴野和子
藤舎呂悦
藤舎呂船
仲俣申喜
半田淳子
廣瀬量平
福田輝久
鳳声晴由

星旭
細谷一郎
増田睦美
望月太左衛
望月太八
元橋康男
矢崎明子
柳家小三治
横山勝也
吉沢昌江
デイヴィッド・ローブ
デイヴィッド・ヒュース
ヘンリー・バーネット
ラニイ・シェルダン
王燕樵
張曉輝

地方支部
道東支部 谷藤 彌
道東支部 竹馬 亘
水戸支部 斎藤 幸山
山梨支部 郷 晃
長野支部 佐藤 幸宇山
新潟支部 飯吉 正山
愛知支部 山田 孝子
愛媛支部 渡辺 治子
福岡支部 安武 由香理
熊本支部 古川 安春

2009年1月現在

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上)

法人会員30,000円(一口以上)

詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせ下さい。またホームページにおいても、お申し込み方法など詳しくご案内しております。

日本音楽集団ホームページ

<http://www.promusica.or.jp/>

ニッポニア・ファイブ受付中

連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになります。

●予約で良いお席を確保、お連れ様は1割引となります。

日本音楽集団主催コンサート、CD、楽譜の割引が受けられます。

ニッポニアAファイブ

定価5,000円のA指定席を5回連続15,000円

ニッポニアBファイブ

定価4,000円のB指定席を5回連続12,000円

ニッポニアネットワーク

(日本音楽集団ファンクラブ)

定期演奏会や楽譜、CDなどの割引、その他の公演、活動、団員のリサイタルのご案内の送付などをいたします。

年間2,000円

日本音楽集団定期演奏会『モニターボランティア』募集

日本音楽集団では定期演奏会にご来場頂き、お客様の視点からの印象や感想などをレポートしていただく〈モニター・ボランティア〉を募集いたしております。ご意見は音楽集団の定期演奏会の運営に役立たせて頂く他、「モニター・レポート」として音楽集団のHP上で公開することもあります。

- 応募方法/本団事務局宛に、応募用紙と共に作文を送付していただきます。
- 第13期締め切り/平成21年4月15日(水) 必着
- 第13期モニター期間▷1年間(第195回~198回の連続4回の定期演奏会)

ご希望の方は演奏会場で、又は日本音楽集団事務局へお問い合わせ頂き、詳細な応募要項をお求め下さい。

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp



アイ・エム・エス

●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル

PHONE.03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728

URL : <http://www.ims-tokyo.co.jp>

E-mail : ims-mail@ims-tokyo.co.jp

粋に愉しむ

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15
TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792)8437
URL : <http://kinko-do.com/>
E-mail : tokyo@kinko-do.com